

〈私〉をすくう

オートエスノグラフィ  
という方法

申込不要・参加無料

再解釈される歴史—「中国残留婦人」四世の立場から

発表者: 森川麗華 (東京大学大学院) 応答者: 川端浩平 (津田塾大学)、高原太一 (成城大学グローバル研究センター)

日時

2026年

3/7(土)  
14:00 - 17:00

会場

成城大学3号館 大会議室(3階)

【問い合わせ先】

glocalstudies@seiyo.ac.jp (高原)



森川麗華

Reika Morikawa

東京大学大学院学際情報学府博士後期課程。専門は、「中国残留婦人」を対象とする歴史社会学。「中国残留婦人」である曾祖母のライフストーリー研究と、「日中ハーフ」／「四世」としての経験を基にしたオートエスノグラフィに取り組んでいる。



川端浩平

Kohei Kawabata

津田塾大学学芸学部多文化・国際協力学科教授。専門は、社会学、カルチュラル・スタディーズ、Japan Studies。著書に『ジモトを歩く—身近な世界のエスノグラフィ』(御茶の水書房 2013)、『排外主義と在日コリアン—互いを「バカ」と呼び合うまえに』(晃洋書房 2020)。